

「コラムといえば、天声人語」といわれるように、「天声人語」は新聞コラムの代名詞になっています。コラムの語源は「column」＝円柱です。横書きの外国の新聞では左側に縦長におかれ、円柱のように見えることから名付けられたともいわれます。

天声人語が初めて登場したのは、1904（明治37）年1月5日の大阪朝日新聞でした。その当時は大阪朝日新聞と東京朝日新聞があり、別々の題字、ほとんどの記事も別々でした。その後、何度か名前を変え、第2次世界大戦が終わった後の1945（昭和20）年9月6日に、統一コラムのタイトルとして復活しました。

復活当初は数人で書いていましたが、まもなく1人が専任で担当する形になり、2007年4月からは、福島申二、富永格の2人の論説委員が執筆しています。その時々の政治、経済、国際関係、社会など様々なニュースや季節の話題などを古今東西の文献からの引用や比喻、ユーモアも交え写し出します。

天声人語などのコラムの特徴は、見出しがないこと、改行がなく、ぎっしりと詰まっていて、1字の余白もないことです。改行すべきところには▼が置かれています。▼は「しかし」にもなれば、「そして」にもなり、あるいは「それはさておき」にも使える便利な記号です。字数を節約するために考え出されたものかもしれませんが、たいへんな知恵です。

（鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問）